


2. 海洋に関する顕著な功績 分野

海洋に関する科学技術振興 部門

氏名又は 団体名称	<small>こくりつきよくちけんきゅうじょかいようどうぶつけんきゅう</small> 国立極地研究所海洋動物研究チーム <small>ないとうやすひこ さとうかつふみ たかはしあきのり</small> (内藤靖彦、佐藤克文、高橋晃周)	
功績の概要	海洋生物に関するバイオリギング手法 の開発と水中行動・生態の解明	

功 績 事 項

1. 小型かつ多機能な行動・環境情報記録計を海洋生物に直接とりつけて観測を行う「バイオリギング」手法を世界に先駆けて開発し、この手法による海洋生物の研究を、国内外の研究者との共同研究として推進した。
2. 海生哺乳類、海鳥類、ウミガメ類、魚類など 100 種以上の生物に対してこの手法を適用し、高精度の行動・生態情報を取得することに成功した。様々な海洋生物が大きな体サイズの違いにもかかわらず秒速 2 メートル程度で遊泳することを豊富なデータに基づき世界で初めて実証するなど、水産資源重要種を含む海洋生物の水中行動生態について新知見を得た。
3. 海洋生物は直接観察することが難しいため、水中の行動生態に関する従来の知見は限られていた。本成果は、我が国の小型電子技術を活用した記録計を用いることで、海洋生物の行動生態の直接的な計測にブレークスルーをもたらした点が特徴である。
4. 本成果は海洋生態系に関する情報の高精度化に大きく貢献し、世界の様々な海域において海洋生物資源の保全・利用に寄与すると期待される。また海洋生物の未知の行動や生態を明らかにし、社会にわかりやすく発信することで、科学への関心を高めた。



画像記録計を装着したペンギン
(左上)とアザラシ(左下)


【記録計から得られた画像】
ペンギンが魚を捕らえる瞬間
(右上)

海氷下で母親の後ろを泳ぐ
アザラシの子ども(右下)

バイオリギング手法により「動物の目線」で行動・生態を観測することが可能になった。

2. 海洋に関する顕著な功績 分野

水産振興 部門

氏名又は団体名称	や え や ま ぎ よ ぎ よ う き よ う ど う く み あ い 八重山漁業協同組合	
所属		
功績の概要	「島人(しまんちゅ)の宝」 ～豊かな海を守る取組～	

功 績 事 項

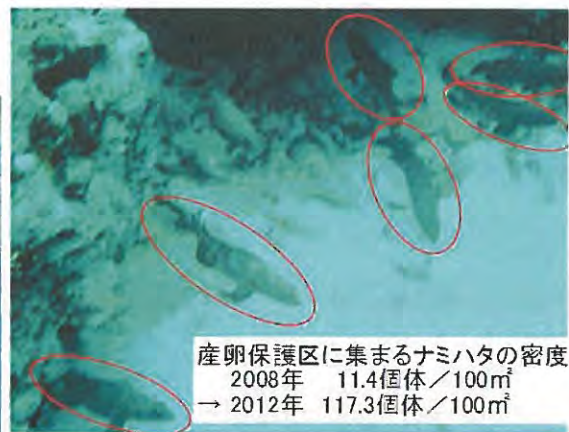
1. 日本最大級のサンゴ礁海域である石西礁湖等において、そこに生息するフエフキダイ類やハタ類、ブダイ類等、全国でも稀な40種以上にわたる魚種の資源回復を図るため、主要産卵場を保護区として設定し、産卵期の禁漁を行うとともに、若齢魚保護のため漁獲サイズを制限し、資源管理型漁業を実践することにより、著しい減少傾向にあった資源の減少がほぼ横ばいとなり、一定の歯止めをかけた。
2. また、サンゴ礁の天敵であるオニヒトデ駆除活動や海底清掃などを始めとして、漁場環境保全の活動を、地域の中核となり、一般市民、遊漁者やダイビング業者、国、県、市町等と強い連携をもって行った取り組みは、珊瑚礁生態系の保全に貢献し、多数報道されるなど、大いに注目されている。
3. さらに、体験漁業や観光漁業を積極的に実施するとともに、毎年開催する小中学生等を対象とした「お魚まつり」等を通じて、環境教育を推進するとともに、地域の活性化に大きく貢献した。

※右上イメージ写真: 撮影(独)水産総合研究センター

① 産卵保護区の設定～魚のお母さんを守ってね！～

産卵に集まってくる魚を保護し、資源の回復を目指します

下記の保護区内では、4～6月の3カ月間、漁や釣りを自粛してください！



2 体長制限

～ちいさな魚をまもってね！～

未熟で、値段の低い小型魚を獲らないようにし、資源を合理的に利用します

制限体長に満たない魚は、獲らないでください！



口先から尾の切れ込みまでを測ります

制限体長 20 cm

白魚類(フエフキダイ科メイチダイ属)



タコクエミーハイ




タマン類(フエフキダイ科フエフキダイ属)



2. 海洋に関する顕著な功績 分野

海事 部門

氏名又は 団体名称	やなぎはら りょうへい 柳原 良平	年齢	81	
所属	イラストレーター			
功績の概要	親しみやすい作品による海事思想の普及			

功 績 事 項

1. 寿屋(現サントリー)の宣伝部でトリスウイスキーのCMを制作し、氏の描いたCMキャラクターのアンクルトリスが人気となり、毎日産業デザイン賞、電通賞などを受賞。1959年サントリー退社後は、船や港をテーマとした「良平の船の博物館」、「良平の東京湾みなとスケッチ」、「船キチの航跡」などの著作を多く発表するほか、海上コンテナのキャラクターマーク、船のデザイン、カラーリングなどを手掛けた。
2. 一般向けの海・船の本を多く執筆するだけでなく、その優しいタッチから子ども向けの絵本も多く手がけている。日本ではあまり親しまれていない多数の船舶をイラストつきの情報で紹介し、日本において船舶に対する関心を引き起こすきっかけとなった。
3. その功績により、商船三井、佐渡汽船、太平洋フェリー、東海汽船の海運各社から名誉船長の称号を贈られている。商船三井では同社のコンテナ船の「アリゲータ」マークをデザインしているほか、同社のWEBサイトのページには同氏のイラストが紹介されている。また、東海汽船では高速船「アルバトロス」のデザインを担当し、さらに超高速ジェット船「セブンアイランド(愛・虹・夢・友)」の命名並びにデザインを担当した。
4. 一般国民にとって馴染みの薄い船舶を、独特の明るく親しみやすいイラストを駆使して一般国民にアピールし続ける氏の活動は、海や船の広報活動に多大な貢献をしている。



海洋立国推進功労者表彰について（概要）

1 趣旨

海洋政策を強力に推進し新たな海洋立国日本の実現を図るためには、海洋に関する国民の理解の増進を図ることが不可欠であり、海洋基本法においても、国がそのための普及啓発活動等に取り組むべきことが規定されている。

このため、平成20年より「海洋立国推進功労者表彰」を設け、科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く紹介することにより、国民の海洋に関する理解・関心を醸成する契機とする。

なお、本表彰は海洋基本法に基づく海洋基本計画にも位置づけられている。

2 表彰者

内閣総理大臣

3 対象分野

科学技術、水産、海事、自然環境など海洋に関する幅広い分野での功績を対象とする（別紙参照）。

4 実施省庁

文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が、内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得ながら実施する。

5 表彰者数

- (1) 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野
全体で4名以内
- (2) 「海洋に関する顕著な功績」分野
部門ごとに1名以内

6 選考の方法

- (1) 候補者については、原則として、関係省庁、関係団体、地方公共団体の推薦によるものとする。
- (2) 有識者からなる中立的な選考委員会を設置し、受賞者の選考を行う。

7 表彰の実施日

毎年、7月の「海の日」前後に表彰式を行う。

(別紙)

表彰の対象分野

1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

(全体で4名以内)

(1) 「普及啓発・公益増進」部門

・海洋に関する普及啓発・公益増進の著しい功績

(2) 「科学技術・学術・研究・開発・技能」部門

・海洋に関する優れて画期的な科学技術・学術・研究・開発・技能の成果

(3) 「産業振興」部門

・海洋に関する産業分野での優れて画期的な経営革新等

(4) 「地域振興」部門

・海洋に関する分野での優れて画期的な地域振興施策

2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

・・・既存の各省大臣表彰を経たもの

(各部門ごとに1名以内)

(1) 「海洋に関する科学技術振興」部門

・海洋に関する科学技術分野での研究開発

(2) 「水産振興」部門

・水産業の振興、水産分野の研究・技術開発

(3) 「海事」部門

・海運、造船、船員、港湾、海上保安等海事関係事業の振興

(4) 「自然環境保全」部門

・海洋に関する自然環境の保全